

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日

平成24年8月16日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4672400068号
法人名	株式会社 九州保健医療
事業所名	グループホームおおうら
所在地	鹿児島県南さつま市大浦町8232 (電話) 0993-58-5102
自己評価作成日	平成24年7月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点 (事業所記入)】

ゆったりとした敷地を活用し、気候の良い時には一緒に花や畑の手入れをしたり、広い園庭を散歩しながら季節を感じて頂いております。日中は一人ひとりの利用者様のペースやリズムで生活が出来るよう個々の利用者様の好みや意向等を把握し、ホームで対応できる事については精一杯応えるようにしております。また、職員と利用者様がゆっくり一対一で外出をしたり、語らう時間も大切にしながら「個別ケア」という事にも力を入れています。「ただ過ごすだけの場所」ではなく「生きがいを持ち、楽しく安心して暮らせる第2の家」と思っただけのよう日々努めております。

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成24年7月30日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点 (評価機関記入)】

自然豊かな場所に位置し、室内外ともに清潔感あふれる温もりに満ちたホームである。職員会議は2ユニット合同で行い、全職員が全利用者を把握する体制を取り、情報の共有ができています。勉強会でもロールプレイングを取り入れた実践的な研修を行い、利用者の気持ちや立ち場を理解する内容で、サービスの質向上に結び付けている。介護計画も排泄の自立に向けた内容を盛り込み、入居後は排泄の記録をとりパターンを把握した上でタイミングを見極め、それにより改善に繋げた利用者が大半であり、日中は全員が布パンツで生活している。利用者の出来る事を重視し、生け花の先生だった利用者にはホーム内のいたるところに花を生けてもらっている。また、利用者に教えてもらいながらラッキョウ漬、梅干、金柑漬、ジャムなど手作りし、食事が楽しみの一つになっている。自然体で利用者の表情も明るく活気があり、利用者同士の関わりも良好でお互い助け合いながら生活している様子が見える。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスを理念に掲げ、朝の申し送り時に全員で復唱している。また「毎朝ただ復唱しているだけ」にならない様に理念の意味を理解しながら復唱し、実践出来るよう心掛けている。	地域交流の重要性を認識した理念を作成し、玄関、ホールに掲示している。職員は毎朝唱和し、時にはケア内容に照らし合わせ、確認しながら実践につなげている。また、職員は利用者個々の目標を設定し、定期的に評価をしながら目標達成に向け、精進している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご近所の方が定期的に季節の花や野菜を持ってきて下さったりしている。また、地域の行事や祭りに参加したり、施設のイベントにも地域の方々を招待したりしてはいるものの、日常的に交流しているとは言えない。	町内会に加入しホーム便りも回覧して貰うなど協力的である。町の運動会や文化祭に出品したり、地区の盆踊りにも参加している。保育園児やボランティア、小中学生の体験学習の受け入れも行っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	ホームのパンフレットや新聞を集落の回覧板に入れて頂いたり、近隣と一緒に散歩したり、イベント等で直接利用者と触れ合ってもらい、認知症について理解を得られるように努めてはいるが、地域貢献というところまでには至っていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の会議を行い、地域、医療、家族、行政を交えて意見交換を行い、サービスの向上に繋がっている。	会議はホームの行事に合わせて開催され、家族代表には毎回、複数名に声をかけるなど多数の参加が得られるよう工夫している。現況報告、地域の情報交換やホームの安全対策についての話し合い、家族アンケートの集計報告などサービス向上に活かしている。	

鹿児島県 グループホームおおうら 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営やサービスに関して、相談や質問、報告など、市の担当者とはこまめに連絡を取っている。また事故の指導などについても指導や助言を頂いたりしながら協力関係を築くよう努めている。	市担当職員は運営推進会議にも必ず参加してもらい、ホームの良き理解者、協力者でもある。生活保護受給者もいるのでこまめに報告を行い、情報を得ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会やカンファレンスの中で身体拘束について勉強する機会を持ち、身体拘束をについて正しく理解するようにしている。日中は玄関の施錠はしていない。	全職員参加の勉強会を3カ月に1回実施し、「禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解できるよう、徹底している。徘徊傾向の利用者には思いに同調し、本人の思いを遂げられるよう支援している。薬剤の拘束についても理解し、医療機関との話し合いで改善に至った事例もある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされないことがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待については年1回勉強会を行っている。虐待防止、虐待を見逃すことのないよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1回権利擁護について勉強会を行っている。		

鹿児島県 グループホームおおoura 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書や重要事項説明、運営規定、ホームの方針やリスク、重度化についてもきちんと説明し、ご家族が理解し、納得して頂いた上で契約している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見や要望については、日々の様子や生活の中でくみ取るようにしたり、関係性が出来ている上で個別にゆっくり話しをしながらさり気なく聞くようにしている。家族等からは運営推進会議で意見を頂いたり、面会時や電話や手紙等で要望など出して頂くよう努めている。	変化のある方の家族にはその都度連絡、報告を行っているが変化のない方にはホーム便り、担当者からの状況報告を3ヶ月に1回發送している。ホーム独自の家族向けアンケートも行っている。面会時、電話、手紙などで要望を聞いて運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やカンファレンスや休憩時間などで意見や要望を出す機会を設けている。言いにくいこと等は個別に聞くようにし、全て職員全員で検討し決定している。職員で決められないことは施設代表者の指示を仰ぎ、決定している。	申し送り、カンファレンスは各ユニット毎に、職員会議は合同で行い、全職員が全利用者を見る体制にして情報の共有も徹底している。勉強会も職員交代で担当を決めて実施するなど、職員育成、資格支援にも力をいれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の状況に気を配り、個々の職員の業務や悩み等把握するようにしている。		

鹿児島県 グループホームおおうら 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>2ヶ月に1回の職員全体研修を実施し、職員のレベルアップを図っている。内容もロールプレイや実際にやってみるような内容にし、身に付くような研修をするようにしている。また、外部の研修会にも参加するように情報提供し、呼びかけている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>さつま半島地区グループ連絡協議会へ参加し、他のグループホームの職員と情報交換を行ったり、相互に施設見学等を行ったりしている。また、外部の研修会に行くことで知り合うことの出来た遠方の施設職員とも独自のネットワークを作り、定期的に情報交換をしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前より訪問をしたり、家族と共にホームを見学して頂いたり、信頼関係を築く為にゆっくりと話す時間を持つようにしている。また、入居されることが決まっても、ご本人が納得されたり、不安が和らぐまで待つようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方には、入居申し込み時や契約時に家庭での状況や困っていることや不安なことがないかを聞き、入居する際の不安等を解消するようにし、家族の方々との良い関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族、医療機関等と相談をしながら、必要としている支援の対応が出来るようにしている。また、急な状態変化時の対応等も説明し、特養申請についても説明をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と毎日の生活を共にしながら、昔ながらの知恵を教えて頂いたり、畑作りや料理を一緒に行ったりしている。また、一対一でゆっくり話をする時間を作り、支え合う関係を築くようにしている。		

鹿児島県 グループホームおおoura 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の状況や出来事を面会時や電話で伝えたり、定期的に近況報告の手紙を出すようにしている。家族からの要望を聞いたり、ホームでは出来ない支援については家族へ相談し、依頼している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある人や、場所と関係が途切れないように自宅周辺にドライブに出掛けたり、園外へ散歩へ出て近所の方々と話をする機会を作っている。	墓参りや納骨堂参り、行きつけの美容院の支援や入院先や自宅訪問、ふるさと訪問も行っている。友人、知人の訪問も多く、訪ねて来やすい雰囲気作りに努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握するように努め、それぞれに自分の役割を持ってもらい、互いに支えあうような関係を作れるよう努めている。また、場合によっては職員が間に入り、利用者が孤立しないように気を付けている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院等でサービスの利用が終了した後も、お見舞いや面会に行ったりしている。また、家族へはサービス終了後も相談して頂けるように伝え、対応出来るようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや意向は、普段の会話やコミュニケーションを図る中で把握するように努めている。困難な場合には日々の会話や行動からその方の希望等を汲み取るようにしたり、家族へ聞くようにしている。	日常のケアを実施しながら、利用者の心の中の思いをくみ取る関係作りを意識しながら、検討や思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族や本人から情報収集をしている。また、普段の生活からも会話をしたりしながら、情報を集め把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の日課等は職員間で熟知しており、申し送りやカンファレンスで確認し共有できるようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時や更新時には職員全員でその方の出来ることを話し合い、本人の意向を取り入れ、照らし合わせながら、安全に楽しく生活出来るプランを作成している。	家にいる時からの習慣である散歩を日課にしたプランや出来る事に着目したプランを作成し、生きがいのあるホーム生活を楽しむ介護計画を作成している。3ヵ月毎の評価と見直しを行っている。	

鹿児島県 グループホームおおoura 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに添って、個別に記録してもらっている。気付いたことは連絡帳や日誌に書くようにし、カンファレンス等で見直しも行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	主治医はいるが、他家族等の意向を聞き、専門医受診をしたり、家族と一緒に病院受診をされた際には、食事をされたり、入浴をして帰って来られたりもしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を活かして、区長さんや地域在住の役所の方などと連絡を取ったりしながら近隣の方々に面会に来て頂いたり、地域の中で参加できるようなことがあれば紹介して頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回の主治医の往診と、必要な場合は本人や家族の意向を聞き、主治医とも常時連携し適切な治療が受けられるようにしている。	定期的往診を含め、全ての利用者が主治医と24時間連携を図っている。専門治療を要する他科受診は家族にお願いしているが、状況に応じてはホームより支援する事もある。	

鹿児島県 グループホームおおura 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>協力医療機関との看護師と連携が取れており、相談や連絡を行い、必要に応じて定期の往診以外でも受診を行なっている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院によるダメージを防ぐ為にも定期的に面会に行ったり、医師と話す機会を作ったりし、早期退院が出来るよう情報交換を行う。また安心して治療が出来るよう支援状況等の情報提供を行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時に本人や家族に話すようしている。事業所で出来ることと出来ないことを主治医の意見も入れ、話し合うようにしている。緊急時にはすぐ対応して頂ける医療機関や介護施設とも連絡を取っている。</p>	<p>看取りの事例はないが、終末期に向けてのケアは主治医と連携しながら可能な限り行っている。職員間でも話し合いを持って不安なく取り組めるように行っている。事業所が対応しうる最大の支援について詳細に明文化した文章はない。</p>	<p>今後においては看取り、重度化におけるホームの方針を家族、主治医、職員との話し合いの下に作成し、全関係者が共有し、支援に取り組む事を期待したい。</p>
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>応急手当や初期対応が出来るよう研修やカンファレンス等で再確認するようにしている。しかし、新人職員はまだ身に付けていないところもある。</p>		

鹿児島県 グループホームおおうら 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回の避難訓練、火災報知機の設置、地域との協力体制を取っているが、職員の対応マニュアルの再確認出来ていない部分もある。</p>	<p>昼夜間想定避難訓練を行っている。2ヵ月に1回、自主訓練も実施している。火災、台風、土砂災害が重点課題で運営推進会議でも議題にし、消防団の方々の協力の下、話し合いを持っている。自動通報装置、スプリンクラーも設置済みであり、備蓄も確保されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いやプライバシーの確保、尊厳を守るよう、ケアプランに組み込み、出来ているかどうかをカンファレンスや職員会議等で確認している。出来ていない職員に対しては再三注意しているが、完全には改善できていない部分もある。	職員会議でも事例を取り上げ、適切な対応が来ている。日常の業務でも気づいた事はその都度注意し合い、介護者として質の向上に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に対し「どうしたいですか？」と聞き、出来るだけ本人の意に添うようにしている。その為、普段からコミュニケーションを取りながら信頼関係を築くようにし、職員に対して遠慮せずに希望を表せるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースに合わせるようにし、職員サイドにならないように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	朝や入浴時等、本人の好みの洋服をしてもらい着て頂いている。ご自分で出来ない方については、本人に聞き、好みを考慮し、職員が準備している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者には野菜の下ごしらえや盛り付け等お願いし、食事の楽しさを持っていただくようにしている。また、後片付けも出来る範囲でして頂いている。	利用者の希望で毎日献立作成し、好物料理で美味しく食べている。利用者の出来る事は手伝ってもらったり、家庭菜園の収穫を楽しんだり、ホームの庭でお茶や食事を楽しむこともある。弁当持参の遠足、外食にも出かけている。	

鹿児島県 グループホームおおoura 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれの食べる量や栄養バランスを考えて献立を立てるように心掛けている。水分量も記録し、1日に必要な水分を摂ってもらうようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事の後は必ず歯磨きをしてもらい、一人で出来ない方は職員が介助をしている。週1回は義歯洗浄を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄記録を付けており、失敗がないよう一人ひとりのタイミングやリズムをつかみ、トイレ誘導を行なっている。夜間もポータブルトイレ等を使用してもらったりして、排泄が自立できるように支援している。	入居時はリハビリパンツ、オムツでも入居後は排泄記録をとって本人のタイミングを把握、自立に向け支援している。日中は全員が布パンツ、もしくはパットを使用している。介護者として意識を高く持ち、排泄の自立支援に力をいれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録をし、便秘等には気を付けている。対策としては野菜を多めに食べてもらったり、水分補給や運動も適度に行い、それでも出ない時には主治医に相談し、下剤を服用したりしている。		

鹿児島県 グループホームおおうら 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴は毎日午後から行っている。毎日入浴されたい方は入ってもらっているが、本人の意向により大体一日おきとなっている。また、状況によって、足浴や清拭を行っている。	基本は1日おきであるが本人の希望、状況に応じて支援している。入浴を嫌がる利用者には無理強いせずに生活リズムを見ながら支援している。菖蒲湯、柚子湯などで季節を感じてもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に和室や自室を行き来しながら、ご自分のペースで過ごして頂いているが、基本的には夜間よく眠れるように日中は起きて頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの利用者の薬は把握し、副作用など出た場合には主治医や薬剤師にすぐ報告している。また、服薬確認を多人数で行い、誤薬がないように気を付けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合った役割を考え、楽しみを持ってもらうように努めている。毎日レクリエーションやリハビリ体操をしたり好きなことを自由にして頂いたりして気分転換を図るようにしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	園内に野菜や花を植え、散歩が楽しみになるようにしており、職員と一緒に対話しながら散歩やドライブに行ったりしている。しかし、職員数が少なかったりすると、すぐに対応するのが難しい場合もある。本人の希望があれば家族と一緒に出かけたりしている。	日常的には敷地内の散歩や菜園の収穫を楽しんでいる。買い物同行やドライブで墓参りに行ったり、季節を感じてもらおう花見など計画、支援している。家族も外出支援に協力的である。	

鹿児島県 グループホームおおoura 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ご自分で管理できるか方は小遣い程度は持っているが、ほとんどの方はご家族が管理している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>利用者の方々がご自分で年賀状や手紙を書かれ、家族へ出している。また、希望があればご家族へ電話をかけ取り次いでいる。また、携帯電話を持っている方もいる。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ゆったりと時が流れるという事を念頭におき、雑音等には十分気を付けている。また季節感を持たせるように季節の花を飾るようにしている。</p>	<p>台所は対面式に設計されているので、見守りしながら食事の支度ができていることから、利用者も入りやすい。リビングは外に面しており、畳敷きの間、ソファが置いてあり、利用者はお気に入りの場でくつろいでいる。広いホールは食事のダイニングとくつろぎのリビングに分かれており、メリハリのある生活を送っている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>玄関やホールにソファベンチを置き、外庭にもベンチ等を置いてお一人でくつろぐことの出来るようなスペースを作っている。</p>		

鹿児島県 グループホームおおoura 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が過ごしやすいように馴染みのあるものは家族に頼んで持ってきてもらうようにしている。また、本人の意向を聞きながら家具の配置などもするようにしている。	テレビやラジカセ、タンス、仏壇、テーブル、座椅子など使い慣れた物品が持ち込まれ、安心して居心地よく過ごせるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体機能に配慮した環境作りに努めている。べつとの高さをそれぞれに合うよう変えたり、事故に繋がるような所はすぐ補修したり、配置を変えたりしている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

鹿児島県 グループホームおおura 1ユニット

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

鹿児島県 グループホームおおうら 1ユニット

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない